

震災教訓の共有むすび塾@インドネシア (河北新報社と共催)

掲載日:2013年04月23日 (C)河北新報社

M7級誘発 宮城要警戒

スマトラ沖地震「むすび塾@インドネシア」



建物が全壊したスーパーマーケットの前でぼうぜんとする子どもたち
—2005年1月3日、バンダアチェ市

発生メカニズム類似

スマトラ沖で2004年に発生したマグニチュード(M)9.1の巨大地震では、防災ワークショップ「むすび塾」を開催するインドネシアを含め、インド洋沿岸の12カ国が巨大地震に襲われた。死者・行方不明者は22万人に上り、うち16万人がインドネシアで犠牲になった。スマトラ沖ではその後、M7以上の大地震が続く。発生のメカニズムは宮城県沖と同じタイプ。気象庁は日本でも次への備えを急ぐべきだと警戒を促している。
(1面に関連記事)

スマトラ沖地震は12月26日午前8時ごろに起きた。地震発生後20分ほどで、最大35センチの津波が海岸に近いアチエ州を襲い、内陸3、4キロの地点までのみ込んだ。その後、連続して続く地震活動は図の通り。米地質調査所(USGS)によると、04年12月以降、



近々の海域で起きたM7以上の地震は20回、3年後にM8.5、5年後にM7.5が起き、これまでに13回の地震で津波も発生した。気象庁は「04年の余震域だけでなく、離れた場所でも誘発されるなど活動域が広がっている」と分析する。余震の中で特に注意が必要なのは、巨大地震が津波は大きくなりやす

余震域内外、短期で発生も 気象庁



スマトラ島西方沖ではインド・オーストラリアプレート(岩板)が、ユーラシアプレートの下に沈み込む。海側プレートが日本海溝で陸側プレートに沈み込み、地震が多発する宮城県沖と同じ構造だ。気象庁地震予知情報課は「東日本大震災でも今後、地震の余震域の内外を含めて短期間で巨大地震が誘発される可能性がある。アウターライズ地震への警戒も必要だ」と呼び掛ける。

必要なのは、巨大地震が津波は大きくなりやす